

新庁舎・(仮称) 新福祉会館建設 事業市民説明会 (1回目)	日時	令和5年10月31日(火) 19:00~21:30	場所	市民会館 萌え木ホール
説明者	白井市長、高橋庁舎建設等担当部長、前島庁舎建設等担当課長、笹栗福祉会館建設等担当課長、田中公共施設マネジメント推進担当課長、富田企画政策課長			
事務局	企画政策課 福井主査、奥主査、中島係長、斉藤主任 (受託者) 株式会社佐藤総合計画			
参加者数	70人(うち市議会議員12人)			
次第	1 開会 2 市長挨拶 3 新庁舎・(仮称) 新福祉会館建設事業について 4 質疑応答 5 閉会			
(進行: 企画政策課主査)				
<p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶</p> <p>3 新庁舎・(仮称) 新福祉会館建設事業について (1)これまでの経過、(4)検証結果に基づく設計見直し、(5)再開方針案について、前島庁舎建設等担当課長が説明を行い、(2)現設計、(3)現設計の検証結果について、株式会社佐藤総合計画が説明を行った。</p> <p>4 質疑応答 (市民A) 設計案は北側に広場があり、広場の利用者と駐車場が近いのでぶつかる危険がある。住宅でも南側に庭を作るのが普通だと思う。子供が安全に過ごせる広場なのか疑問がある。 また、検証が①～⑨までしかない理由を教えてください。 (庁舎建設等担当課長) →検証項目は、前市長時代に議会と協議の場を設け、いろいろな意見を頂き、コストダウンにつながるかどうかという視点で建物について①～⑧までの項目として整理していたが、市長辞職により協議が終了してしまっただ。今回、再開に当たり、議会より、協議会で出ているものについて、コストダウンにつながるか検証を行ってからその後を判断するというので、検証を行った。 施設配置については、建設計画調査を行い、施設の配置、規模を決めている。日影規制があり、建物の高さ規制があるため、建物を南側に寄せて配置しており、その関係で北側に広場を配置している。広場利用者の安全性については、今後検討したい。</p> <p>(市民B) 市庁舎は免震構造、福祉会館が耐震構造となっているが、3億円増額しても福祉会館を免震構造とした方がよい。福祉会館の安全性に加え、庁舎と福祉会館が異なることに対する気持ちの問題もある。コストが問題であれば庁舎も耐震構造としては。 (庁舎建設等担当課長) →市民の利用が多い施設は、耐震強度1.25倍の地震に強い構造とするが、現在設計している福祉会館は1.5倍として、庁舎と同じ耐震強度を確保している。設計ではコストも大事であり、他の公共施設を見ても庁舎以外を免震構造としている例は少ない。コストに加え、市内の他の公共施設の耐震性と整合性や、耐震強度を1.5倍に上げていることを考えると、耐震構造を採用するのは妥当だと考える。 (佐藤総合計画) →多くの公共施設は耐震構造。耐震構造でも免震構造でも、耐震強度は変わらない。 耐震構造と免震構造の違いは揺れの小ささ。最近の庁舎を免震構造としているのは、災害対策本部があり、地震後も機能継続するため。一方、福祉会館等の公共建築は余震が止まるまでサービスを停止するので、耐震としている例が多い。</p>				

(市民C)

当初は敷地内に清掃関連施設がある前提でL字型に建物を配置して、福祉会館を先行オープンさせる計画であった。清掃施設が無くなって前提条件が変わったのに、現在の設計のまま進めるのはおかしい。なぜ見直さないのか。議会ではコストが減り、南側に 3,000 m<sup>2</sup>の広場が確保され、工期も短くなる案が出されている。

(庁舎建設等担当課長)

→議会で見直し案が出されているが、前提条件の見直しを提起した1つの案と受け止めている。

しかし、条件を変更して再設計をするとなると、基本設計前まで立ち戻ることになる。これまでプロポーザル等の手続きを踏んで、公平に決めてきたので、同様の手続きを踏むことが公平性・透明性の観点から必要であり、見直し案を採用することはできない。

(市民D)

市長の説明は高く評価するが、市側の説明は数字、略語、英語が多くて分からない。「検討中」といったあいまいな発言はやめた方がよい。

(市民E)

2か月間で、600万円を使って検証を行っているがその意図は何か。また、設計者はコンペ時、基本設計時、実施設計時に、工事費をいくらで設計して欲しいと依頼があったのか。また、9項目の検証に対して、設計者としてオリジナルの提案はあったか。

(市長)

→6月議会で、実施設計再開の予算を提出したが、議会にて、9項目について検証することを内容とした議決があった。市として、この結果を受け止め、検証を行った。

(佐藤総合計画)

→工事費は聞いている。また、さまざまな条件、要望を市と打合せを行いながら設計を行っている。設計事務所から、与条件に対して勝手に提案をするということはない。

(市民F)

なぜ複雑な構造とするのか。清掃関連施設の前提条件が変わったので、1つの建物にシンプルにした方がよい。見直し案はコストが減り、南側に 3,000 m<sup>2</sup>の広場が確保され、工期も短くなると聞く。

(市長)

→基本構想を策定し、基本設計で市民ワークショップなどの市民参画、実施設計とプロセスを経て、議会の議決を受け、民主的手続きを経て進めている。

やり直すとなると、条件を変えることになり、プロポーザルから始める必要があり時間がかかる。基本構想からプロポーザルまで7年もかかった。これまでの民主的手続きを尊重したい。早期実現を目指して、現在の設計で実施設計を進めていきたいと思っている。見直し案という熟度の違うものと比較できないし、そこに立ち戻るのは小金井市政が停滞する原因となる。

(市民G)

1月1日に市報で、市長はこの難局を乗り切るためには、思い切った決断を行ったりあらゆる手法を駆使して取り組むことが重要と述べている。一度決めたからと、市民の意見を聞き流すのはおかしい。安く安全でシンプルに作る方がよい。

町会のイベント等でも今の広場を利用している。ぜひ 3,000 m<sup>2</sup>の広場を検討して欲しい。

(市長)

→一度決めたことを、全く意見を聞かずに進めるということではない。

6月議会では、議会から、9つの項目について検証することの議決がされ、これを受け止めて、検証を

行った。検証の結果によっては、設計内容を変更する覚悟も持ちながら行った。

広場については、緑の広場の面積は狭くなるが駐車場も一体として使ってイベントを行う運用も考えている。

(庁舎建設等担当部長)

→3,000 m<sup>2</sup>の広場を作るのは難しいと考えている。基本設計時から実施設計の段階で、パブコメの意見を取り入れて、広場を増やした設計とした経緯がある。現在の設計では 840 m<sup>2</sup>の面積があるが更に広げられないか検討している。

(市民H)

子育て世代の立場から、広場は現設計の位置が良い。南側に広場を作ると、暑い時期の6か月間は、暑すぎて、人がいない広場になる。子供を連れて行くには、南側の広場は良くない。また、広場が北側だと子どもは電車が見え喜ぶ。

(市長)

→電車については、福祉会館3階の屋上から電車が見える計画となっている。

(市民I)

新庁舎は、現庁舎の位置から東側に移転するが、出張所を西側にも作って欲しい。

(庁舎建設等担当部長)

→現在、出張所を作る計画はない。

今後、手続きは、マイナンバーカードを利用したコンビニサービスなどを拡充していくことになると考えている。

(市民J)

庁舎の屋上も広場として使えるようにして、庁舎屋上を保育園の運動会で使えるような方法も検討できないか。

(庁舎建設等担当課長)

→庁舎屋上は機械設備置場で使っていて、広場として使うことは難しい。

(市民K)

民主主義のプロセスを続けていけば無限に案は出てくるし、資材も日々高騰しているので、一刻も早く着工してほしい。再開設計のスケジュールは9か月～14か月というが、もっと短くならないか。また、プロポーザル時の設計者の提案を公開しているか教えて欲しい。

(佐藤総合計画)

→構造に関わらないトイレのレイアウトなどの見直しがあり、18,000 m<sup>2</sup>ある建物なので、図面修正、積算行っていくことを考えると妥当な設計期間だと考える。

(企画政策課主査)

→プロポーザル時の提案や結果は市のHPに掲載している。

(市民L)

現行案はプロポーザル等の適正な手続きを経て、市民の意見を踏まえたものであり、設計の見直しをすると、とても時間がかかるので現行案で進めてもらいたい。

本庁舎はかなり古くなっており、トイレは床が抜けたり、使いたくない古さ。防災の拠点となっているが不安がある。障がい者差別解消法で、合理的配慮が義務化されるが、本庁舎の議会も傍聴ができないので、一刻も早く新しい庁舎を建てて欲しい。

(市民M)

実施設計概要版が本日HPに掲載されたが、市民に対しての説明が少ない。国分寺市の説明会ではオンライン中継や録画配信も行っている。市民に対しての周知と意見聴取の仕方は検討して欲しい。

また、環境配慮計画は太陽光発電設備が80kW→30kWになったり、福祉会館屋上庭園が人工芝になるなど、世の流れに逆行していると思う。国などで決められたランクを達成するように努力して欲しい。

(市長)

→市民への情報提供が十分できていなかった部分があると反省しており、今後の方法は検討したい。環境面についてはできることを考えたいと思う。

(市民N)

見直し案を検証しないのはおかしい。

(庁舎建設等担当課長)

→見直し案は、詳細な設計がされておらず、アイデアレベルのもの。個別具体的に比較するものではない。適正なプロセスを経ていない案を検討するというのは、透明性、公平性から逸脱するので、市で検討することにはならない。

(市長)

→実施設計検証については、議会の議決内容に基づき、検証項目を検証している現設計案を基本として進め、見直すことは考えていない。

(市民O)

暫定広場は一時なもので、庁舎建設のための土地だと理解している。現設計で進めて欲しい。

職員が安全安心な庁舎で、能力が発揮できるためにも早急に建設を進めて欲しい。また、小金井市で、市民の意見が100%盛り込まれて設計された公共施設というのではないのではないか。

(庁舎建設等担当課長)

→100%盛り込まれた施設はないと思う。庁舎建設は市民ワークショップ等で、市民の意見をもらいながら、一番良い選択をしてきたと思う。

(市民P)

設計者はL字型の建物を手掛けた実績はあるか。設計者が手掛けなくても、関東で複雑な形状の庁舎というものはあるのか。前例の少ないものは失敗する可能性があるのでは、見直した方がよい。

(庁舎建設等担当課長)

→事例については後日回答する。構造安全性について、構造計算を行い、大臣認定も取得していることは安心できる。

(市民Q)

障害者利用を踏まえ、福祉会館も免震建物として欲しい。

(庁舎建設等担当課長)

→検証の結果、総免震は採用しないと判断した。

(市民R)

市役所へのアクセスは重要であり、駐車場や駐輪場を少なくして広場を広げるというのは本末転倒。現庁舎の台数との比較を教えて欲しい。

(庁舎建設等担当課長)

→建設計画調査では、現在の庁舎の台数や付置義務台数、他市状況等を参考に、駐車場126台+駐輪場400台と算定した。

実施設計においては、広場を広げて欲しいというパブリックコメントの要望が多かったため駐車場を減らし、駐車場 109 台＋駐輪場 450 台としている。

(市民 S)

L字型で建物が重なっているうえ、免震と耐震が潜り込んでクロスしている。大地震時に不具合がないか心配がある。

(庁舎建設等担当課長)

→構造計算を行い、大きな地震に耐えられるか計算をしている。さらに、構造計算結果は、国土交通大臣の認定を取得しており、安全に利用いただける。また、L字型の接合部分は、エキスパンションジョイントで動くようになっているので、注意喚起表示をする。

重ね合わせることによって想定範囲内の地震で壊れてしまうということはない。

(市民 T)

竣工が遅れる場合、第二庁舎のリース代が更にかかることになる。今まで第二庁舎のリースで支払った額を教えて欲しい。また、福社会館が閉じている間の損失について教えて欲しい。

新庁舎のアクセスについてバリアフリーの観点から説明して欲しい。

(市長)

→第二庁舎のリース費は駐車場と合わせて、年間 2.6 億円程度かかる。これまで 30 年近く借りており、合計すると 71 億円払っている。

福社会館閉鎖の損失は金額換算できないが、不便の声は多数聞いており、福社会館が閉鎖したことで、活動停止した団体が 4 団体あった。

新庁舎へのアクセス方法だが、ココバスは敷地へ直接乗り入れる計画はなく、今後の課題と認識している。

5 閉会

— 以上で、閉会 —

新庁舎・(仮称) 新福社会館建設 事業市民説明会 (2回目)	日時	令和5年11月1日(水) 19:00~21:20	場所	公民館貫井南分館 学習室A B
説明者	白井市長、高橋庁舎建設等担当部長、前島庁舎建設等担当課長、笹栗福社会館建設等担当課長、田中公共施設マネジメント推進担当課長、冨田企画政策課長			
事務局	企画政策課 福井主査、奥主査、中島係長、斉藤主任 (受託者) 株式会社佐藤総合計画			
参加者数	31人(うち市議会議員7人)			
次第	1 開会 2 市長挨拶 3 新庁舎・(仮称) 新福社会館建設事業について 4 質疑応答 5 閉会			
(進行: 企画政策課主査)				
<p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶</p> <p>3 新庁舎・(仮称) 新福社会館建設事業について (1)これまでの経過、(4)検証結果に基づく設計見直し、(5)再開方針案について、前島庁舎建設等担当課長が説明を行い、(2)現設計、(3)現設計の検証結果について、株式会社佐藤総合計画が説明を行った。</p> <p>4 質疑応答 (市民A) 設計変更ができないのはなぜか、質問を受け付けないというのはなぜか。 福社会館が耐震構造で、地震時に揺れる。障がい者、老人、子どもも使う、市民のための施設なのに、疑問である。 (庁舎建設等担当課長) →実施設計の検証を行って、コストダウンにつながるものが無いと判断し、現設計をもとに進めたいと考えている。建物について変更の検討をすると時間がかかってしまう。建物に関して発言していただいても良いが、大きな変更を反映することは難しいと考えている。 (佐藤総合計画) →耐震構造は、柱や壁をしっかり作って地震に耐える構造形式で、免震構造はゴムの上に建物を載せて、ゆっくりと揺れて地震に耐える構造形式で、耐震強度は同じ。地震が来たら、安全確認後に建物から避難するのが基本。ほとんどの公共施設は耐震構造で、巨大地震時には、外に避難してもらう前提になっている。巨大地震が来たときには余震もあり、市民が避難生活をしている間に、福社会館は通常の市民サービスを一度ストップすると考えられる。 一方、庁舎は、災害対策本部があり機能をストップできないので、免震構造としている。建設コストは耐震構造より免震構造の方が高くなり、さらに、免震装置も数十年に1回入替をする必要があり、更新コストも巨額になる。初期コスト・更新コストも考慮すると、災害対策機能を持つ庁舎は免震構造を選択し、それ以外は耐震構造としている自治体が多い。 また、福社会館は通常建築基準法の1.25倍で良いところを、1.5倍の耐震強度としている。 (市長) →基本設計時にも総免震化については議会から意見もあり、議論をしてきた。結果的に、免震+耐震構造のまま実施設計をすることとなっている。 2年前に財政的な理由で実施設計の最終段階で中断したが、2022年4月~10月に前市長の発案で協議会を行い、総免震の話も出ていた。市長交代後に庁舎建設を進めるにあたり、協議会で出た項目について、2023年7月から8月に検証を行い、構造の変更でコストダウンにつながるものではないと分かり、免震+耐震で進めたいという結論に至った。</p>				

(市民B)

地下駐車場をやめて立体駐車場を建てる案でコスト増になっているが金額の内訳を教えて欲しい。

(佐藤総合計画)

→後日回答する。

(市民C)

免震構造の庁舎が耐震構造の上に載っているが、耐震構造部分が壊れた場合にも免震構造部分は大丈夫なのか。

(佐藤総合計画)

→庁舎と福祉会館は同じ強度で設定して計算しているの、どちらが壊れやすいということはない。ただし、耐震構造の方が揺れが急なので、家具などは倒れないように固定することになる。

(市民D)

25億円安くなるという見直し案を市は検討しているのか。市の南側(崖線下)は公共施設が少ない。コストダウンして市の南側にも施設を充実させてほしい。

(庁舎建設等担当課長)

→協議会でも見直し案は提示されたが、前提条件を抜本的に変更した場合の一案で、詳細な設計がなされていない案を個別に検証するものではないと答えている。前提条件を変え、民主的プロセスを経ていない一案を比較検討することは、公平性、透明性に欠けるため、比較検討に値しない。

(市長)

→現在の設計案は、基本構想、基本計画、建設計画調査、設計者選考委員会、基本設計、市民ワークショップ等の手順を踏み、その都度、議会の承認を受けながら民主主義の手続きを経てきており、前市長の就任以降、ここまで来るのに8年かかっている。プロセスを経ていない一案を比較検討するとすると、公平性、透明性に欠けるため、比較検討はできない。庁舎建設を早期に実現させたいと考えている。

また、崖線下の公共施設は重要な課題だと考えている。公共施設配置については、庁舎建設が進んだ後に検討していきたい。

(市民E)

緑中央通りを高齢者が行き来する。新庁舎ができると車の出入りがあるので、交通対策を取らないと事故が起きるのではと心配している。

(庁舎建設等担当部長)

→第二庁舎では駐車場出入口に警備員を配置している。運用の話になるが、警備員配置などの安全対策を今後検討する。

(市民F)

同時竣工が前提条件だったら、設計案も変わったのか。

(庁舎建設等担当部長)

→違う形となる可能性もあったと思うが、大きく形は変わらなかったのではと想像できる。H29、H30年に建設計画調査を行って配置を決めてきた。基本計画時には、東西に長い敷地で西面が道路に面しており、将来の行政需要に備えて余剰容積の活用を想定すると、敷地の奥の方に先に建てる建物を配置することを考えた。また、道路に面して広場を設けることで市庁舎の顔となることも基本計画の時は想定していた。それは同時竣工でも同様である。

(市民G)

基本設計説明会から変わった点はあるか。市民参加、議会承認の民主的プロセスを経た結果、中断して遅

れてしまったことは腹立たしい。後出しジャンケンが認められると、いつまで経っても決まらない。手続き上問題がなければ進めるべき。今回、参加して、どういう理由でストップしていたか、安全上問題ないことなどが理解できてよかった。

(庁舎建設等担当課長)

→大きな変更はないが、基本設計のパブコメを受けて広場を広くしたほか、ハザードマップ改定に対応するため、建物の1階床の高さを高くするなどを変更した。

(市民H)

見直し案を検討できないと決定した理由を教えてください。見直し案は基本設計から始めてもそんなに時間はかからないと聞いているし、コストも23億円も安くなる。市民が望むのであれば、変更すべきだ。

(市長)

→行政は民間と違い、市民に説明し、市民参加のプロセスを経て、議会の承認を得ながら進めなければいけない。現設計は小金井市を進展させるものになっていると確認している。民主的プロセスも経てきている。

仮に、案を1から見直すとなると、条件設定、基本計画から、全てやり直しをする必要があり、何年かかるか分からない。現在、実施設計を再開するという説明をしており、見直しの議論をする段階ではない。

見直し案の検討は行わない。コストについては、時間がかかることで、第二庁舎の賃料も年間2.3億円かかる。30年近くかけて総額70億円も払っている。庁舎が進まないことで他のいろんな事柄が停滞しており、大きな機会損失があり、市民サービスの低下につながっている。大きな組織改編もできない。庁舎が分散していることで年間2,000時間無駄になっている。跡地活用も進められない。現在の設計は市政を進展させる設計だと確信している。民主的プロセスも経てきている。今は実施設計再開の段階であり、見直しは考えていない。

(市民I)

京都、奈良の古い寺院は免震構造ではない。免震構造を私は信じられない。全て免震にするため、市民の信任を問いたいなら、解散総選挙すればよい。

(佐藤総合計画)

→京都、奈良の古い寺院については、木造の耐震構造であってもきちんとメンテナンスを行えば、古い建物でも維持できるよい例である。

(市民J)

実施設計概要版はR4年2月の資料となっているがなぜか。

(庁舎建設等担当課長)

→R4年に設計をストップした。今回、再開するにあたり、最新の資料であるR4年2月のものに基づき、市民説明を行っている。

(市民K)

早く安く安全に市庁舎を作って欲しい。

議会に対して構造形式などの重要事項説明を行っていないのは手続きに問題があるのではないかと。また、釜石市庁舎もL字型だが、それと異なり、小金井市庁舎の設計は福祉会館が市庁舎に貫入していることに不安がある。検証は、コストに対しての検証しかしていない。セカンドオピニオンにより、構造に対する検証も行うべき。

(市長)

→構造形式については議会に説明し、何度も何度も議論している。

(佐藤総合計画)



→構造計算を佐藤総合計画が行い、国土交通省の外郭団体で安全確認を行い、大臣認定も取得している。更にセカンドオピニオンと言っても、大臣認定以上のセカンドオピニオンは考えられない。

今回の構造は新しい事例というわけではないが、庁舎と福祉会館を同時に複合施設として作る事例は少ない。古い庁舎に増築をする場合など、耐震構造と免震構造の組み合わせた事例は多数ある。

(市民L)

L字型であることにより、ピロティがある点は、雨天時に傘を差さずに乗降できるので、福祉の視点から見ると良い。また、I字型の案には無いが、L字型であることにより、屋上庭園があることで、子どもたちが安全に屋上で遊ぶことができる。見直し案を検討すべきという意見が多かったが、良し悪しはある。現設計に基づき、早く建設を進めて欲しい。

(市民M)

7～8年掛けて見直しをするのではなく、市役所のパフォーマンス向上や市民サービス向上のためにも現設計で早く建てて欲しい。

建物の中は配線・配管などが簡単に変更される構造となっているか。また、広場は後で変えやすい構造になっているのか。

(佐藤総合計画)

→配線、配管は取替可能な設計になっている。広場は、後から工事を伴う改修は可能である。

(市民N)

見直し案について設計者はどう思ったか。

現設計には反対。前提条件を変えたのは市で、見直し案は守っている。基本設計直後に、当時の白井議員に見直し案を説明している。構造計算以外の設計はできている。見直し案を受け止めて欲しい。

(庁舎建設等担当課長)

→設計者には、見直し案を業務外で少し見せたが、「詳しく聞いてみないと分からない」との話だった。

(市長)

→議員時代に、基本設計が終了した時に、総免震への見直しの申し入れを市にしたが否認され、実施設計に進んだ。それ以外には各段階で、現設計を進めることを許容してきた。

実施設計を再開する段階であり、見直し案を検証する考えはない。

## 5 閉会

— 以上で、閉会 —

新庁舎・(仮称) 新福祉社会館建設 事業市民説明会 (3回目)	日時	令和5年11月3日(金) 14:00~16:20	場所	東小金井駅開設記念会館(マロンホール) ギャラリー
説明者	白井市長、高橋庁舎建設等担当部長、前島庁舎建設等担当課長、笹栗福祉社会館建設等担当課長、田中公共施設マネジメント推進担当課長、富田企画政策課長			
事務局	企画政策課 福井主査、奥主査、斉藤主任 (受託者) 株式会社佐藤総合計画			
参加者数	68人(うち市議会議員7人)			
次第	1 開会 2 市長挨拶 3 新庁舎・(仮称) 新福祉社会館建設事業について 4 質疑応答 5 閉会			
(進行: 企画政策課主査)				
1 開会				
2 市長挨拶				
3 新庁舎・(仮称) 新福祉社会館建設事業について (1)これまでの経過、(4)検証結果に基づく設計見直し、(5)再開方針案について、前島庁舎建設等担当課長が説明を行い、(2)現設計、(3)現設計の検証結果について、株式会社佐藤総合計画が説明を行った。				
4 質疑応答				
(市民A)				
市長案には反対。見直し案は23億円安くなる。市長案と見直し案の比較検討して欲しい。				
(市民B)				
現在の広場は、子供たちが遊んでいる。高齢者にとっても、ベンチを置いて会話ができる明るい広場にしたい。市民が気軽に来れて、誇らしく感じることができる、南側に面した広場を確保して欲しい。				
(庁舎建設等担当部長)				
→本庁舎の駐車場は900㎡あり、現在設計しているさくらひろばは840㎡ある。3,000㎡にはならないが、広げられないか検討している。広場の位置については、H23、H24年度に、基本計画で市庁舎のあり方を検討しているが、緑中央通りに面した位置としており、これに沿った形で設計している。				
(市民C)				
見直し案を採用しなかった理由は?				
(庁舎建設等担当課長)				
→協議会や市議会でも見直し案は提示されたが、前提条件を抜本的に変更した場合の一案であると認識している。現設計は基本設計のプロポーザル条件を踏まえたものであり、設計を大きく見直す場合、前提条件を変更したうえでプロポーザルからやり直さなくてはならない。前提条件を踏まえておらず、詳細な検討をしていない案と比較できない。				
(市民D)				
庁舎が免震構造で福祉社会館が耐震構造となっているが、変えられないのか。見直し案は両方とも免震構造としている。免震と耐震構造の複合は大丈夫か。				
今の設計で、広場を広くする検討をするといっても、せいぜい1,500㎡も取れないが、見直し案なら3,000㎡取れる。見直し案と比較検討できない理由は。				
(佐藤総合計画)				

→耐震構造は、柱や壁をしっかり作って地震に耐える構造形式で、免震構造はゴムの上に建物を載せて、ゆっくりと揺れて地震に耐える構造形式。福祉会館は通常建築基準法の係数 1.25 でよいところを、係数 1.5 の強度としており、庁舎と福祉会館の耐震強度は同じ。ほとんどの公共施設は耐震構造で、巨大地震時には、安全確認後、外に避難してもらう考えになっている。巨大地震が来たときには、1～2か月ほど余震がある。余震が続いて市民が避難生活をしている間に、福祉会館等庁舎以外の施設は、市民サービスをストップするのが通常である。

(市長)

→現設計は福祉、協働、交流のまちづくりの拠点となるものであり、市政進展のための施設となり、現設計でよいと考えている。民主的プロセスを経ていること、これまでの経過、早急に建設すべきことを踏まえると、実施設計の再開段階において見直し案を検証する考えはない。

仮に、案を1から見直すとなると、条件設定、基本計画、プロポーザルから、全てやり直しをする必要があり、設計や着工まで何年かかるかわからない。

第二庁舎の賃料も年間 2.3 億円かかる。30 年近くかけて総額 70 億円も払っている。本庁舎はトイレの天井に穴も開いているほど、危険であり、庁舎建設が延期となると、本庁舎も改修が必要になり無駄なお金がかかる。新庁舎建設が進まないことにより市政が停滞する。跡地活用、組織改正、職員のパフォーマンスの向上等が進まない。また、時間が経つほど物価高騰の懸念もある。延びるほど条件が悪くなる。

(市民E)

福祉会館もある複合施設として、駐車台数が足りないのではないかと。臨時駐車場 23 台を常設にする必要がある。広場も大事だが、市庁舎として機能上必要なものを優先して欲しい。庁用車 50 台は全て地下に停められるのか。福祉会館利用者と庁舎利用者で駐車場の利用時間が違うので足りなくならないかと懸念する。

(企画政策課主査)

→H29 年 建設計画調査 126 台 (公用車 48 台 + 付置義務台数 58 台 + 利便性向上目的 20 台) と設定。

R 1 年 基本設計 124 台 (本庁舎駐車場等の利用状況も勘案)

としていたが、基本設計後のパブリックコメントで広場を増やす要望が多かったため、

R 3 年 実施設計 109 台 (公用車 41 台 (地下) + 地上 45 台 + 臨時 23 台) に見直した。

今後、この台数は確保しながら、広場を広げられないか検討をする。また、駐車場だけではなく、公共交通機関のあり方も含めて検討する必要がある。

(市民F)

リサイクル施設の前提条件が変わった時点で、条件見直しをしなかったのか。

(庁舎建設等担当課長)

→既に、建設計画調査において、リサイクル施設の移転の有無それぞれの場合で施設配置を検討したが、施設配置の結論は変わらなかった。施設配置や施設規模の前提条件を基にプロポーザルを実施し、設計者を選定した。施設配置の条件は変わらない。

(市民G)

免震構造と耐震構造の体感としての違いは。

(佐藤総合計画)

→耐震構造は、地面に繋がっているのので、地震の揺れと同じように揺れる。建物内部では家具や照明も揺れるので固定が必要。免震の場合はゴムの上に載っており、ゆっくりと揺れ、家具などが倒れにくい。強度については、想定地震以下であれば、耐震構造だけ壊れるということはない。

(市民H)

発注方式について、設計・施工分離か、一括か教えて欲しい。また、監理の事業者は決まっているのか。

(庁舎建設等担当課長)

→設計と施工を分離する方式としている。

監理の事業者は未定。

(市民I)

見直し案は北側に駐車場、南側に広場を配置し、シンプルな建物形状となっている。見直し案に賛成。工事費やメンテナンス費も安く済む。考え直してもらいたい。

(庁舎建設等担当課長)

→直線状の案は建設計画調査時に検討済みで、そのうえで設計に入っている。コストについては、同じ面積であれば、建物形状によって、コスト差はあまり生じない。

(市長)

→見直し案との比較検討はできない。庁舎が進まないことで他のいろんな事柄が停滞している。大きな組織改編もできない。また、庁舎が分散していることで年間 2,000 時間無駄になっている。跡地活用も進められない。第二庁舎の賃料は年間 2.3 億円掛かる。26 市でこんなひどい庁舎は小金井市だけ。やり直すといつになるかわからない。現設計を基に早期建設を目指したい。

(市民J)

福祉会館屋上に人工芝が張られると聞いたが、マイクロプラスチックの問題があり、人工芝は見直して欲しい。

また、新庁舎が完成したら、リサイクル事業所機能は敷地内に戻して欲しい。

(福祉会館建設等担当課長)

→人工芝については同様の意見が議会でもあり、引き続き検討したい。

(庁舎建設等担当部長)

→天然芝は管理をどうするかの問題があり、保留状態になっている。

(市民K)

庁舎建設が遅れたのは市民のせいではなく小金井市当局のせい。

浸水するというのに、地下駐車場に頼るのは適切か。責任追及がしやすいように設計施工一体で行った方が良い。

(庁舎建設等担当課長)

→DB（設計施工一括方式）について、当初、DBにしたいと議会に提案したが、入札参加者が限られる問題や、コストが不明瞭になるので公共工事発注には適さないと判断され、分離方式とした経過がある。

また、浸水レベルについては、1階床、地下駐車場は浸水しないような高さ設定としている。なお、ハザードマップ改定による浸水は、下水が処理できないことによって雨水が溜まる内水氾濫となっており、年超過確率 1,000 分の 1 以下の降雨量を想定している。

(市民L)

見直し案に賛成。現設計は広場が小さい。一直線の方が安くできる。

(庁舎建設等担当課長)

→同じ面積であれば、建物形状によって、コスト差はあまり生じない。また、免震構造の面積が増えればコストは高くなる。

(市民M)

現設計は、人、バス、車の動線が交錯するので、再検討してほしい。また、駐車場が 2 つに分かれると、動線が 2 つになり、事故が起こるリスクがあるので検討をお願いします。

(庁舎建設等担当課長)

→広場を含めた外構の再検討の際に、安全性に配慮して検討したい。

(市民N)

メンテナンス費についても将来の物価上昇を考慮しているのか。大規模修繕は何年後を計画しているか。

(庁舎建設等担当課長)

→物価上昇の考慮は、建設費のみで、メンテナンス費の物価上昇は考慮していない。大規模修繕の時期は後日回答する。

(市民O)

1964年の東京オリンピックは1959年に開催が決まり、5年でやりきった。市庁舎はH21年の基本構想から14年が経過し、時間がかかり過ぎている。物価上昇を踏まえると、早く建設したほうがお金の無駄にならないと思う。

(市民P)

通常、建設費用よりも維持管理費の方が高くなる。人工芝から天然芝にすると植木屋さんにメンテナンスを頼むことが必要で維持費がかかり、両方のメリット・デメリットを天秤にかけての判断が必要。L字型の形状を少し変えればメンテナンス費が抑えられるかなど、メンテナンス費軽減にも留意して検討して欲しい。

(市民Q)

見直し案を検討して欲しい。

(市長)

→今回は実施設計を中断していたのを再開することの説明会である。

実施設計というのは、基本設計から、施工者に伝える図面を作成する段階であり、見直し案を検討する段階ではない。構造に関係するところは変更できないが、人工芝の話など、検討可能なものは検討したい。

(市民R)

市民協働の拠点ができるのは良い。広場を活用した市民協働の取り組みは何か考えているか。

(市長)

→今現在、具体的な話はない。市民協働の在り方検討委員会において11年前に答申を提出しており、市としては市民協働を進めて行く考えだが、現在、市民協働支援センター準備室ができており、市民協働支援センターができた際には、答申の内容を進めて行きたい。

(市民S)

本日、設計案に問題がないことを知ることができた。ジャノメ跡地購入から30年以上経過しており、現設計に基づき、市庁舎をできるだけ早く建設して欲しい。

駐車場の数は、福祉会館と複合されると足りない懸念もあるので、見直せるのであれば、検討して欲しい。

(市長)

→駐車場については検討していきたい。

(市民T)

小学校では校庭が天然芝となっていて、小金井市は自然を意識しているのだと思っている。環境に配慮しているのであれば、庁舎の作り方は変わってくると思う。駐車場を減らせないなどの理由で、広場という自

然の象徴が減ってしまうのであれば、新庁舎の魅力が減ってしまうと思う。

(市長)

→広場の確保に関して、屋上庭園は、広場からアクセスできなかったが、外からアクセスできるように変更した。人工芝についてはマイクロプラスチック等の懸念があるのは承知している。メンテナンス等を考えて人工芝としているが、改めて検討したい。

(市民U)

見直し案に近づけるような変更は可能か

(市長)

→構造に関わる変更はできない。

(市民V)

公共施設マネジメント基金が26市中26位となっている。学校、公民館など、将来建て替えが必要な建物もたくさんある。シンプルで安い案がよい。今からでも数十億安くなるのであれば、見直しをするべき。将来、自分の子供たちに借金を負担させるのは反対である。現行案には反対。

5 閉会

— 以上で、閉会 —

新庁舎・(仮称) 新福社会館建設 事業市民説明会 (4回目)	日時	令和5年11月3日(金) 19:00~21:10	場所	公民館緑分館 学習室ABC
説明者	白井市長、高橋庁舎建設等担当部長、前島庁舎建設等担当課長、笹栗福社会館建設等担当課長、田中公共施設マネジメント推進担当課長、富田企画政策課長			
事務局	企画政策課 福井主査、奥主査、斉藤主任 (受託者) 株式会社佐藤総合計画			
参加者数	28人(うち市議会議員6人)			
次第	1 開会 2 市長挨拶 3 新庁舎・(仮称) 新福社会館建設事業について 4 質疑応答 5 閉会			
(進行: 企画政策課主査)				
<p>1 開会 2 市長挨拶 3 新庁舎・(仮称) 新福社会館建設事業について (1)これまでの経過、(4)検証結果に基づく設計見直し、(5)再開方針案について、前島庁舎建設等担当課長が説明を行い、(2)現設計、(3)現設計の検証結果について、株式会社佐藤総合計画が説明を行った。</p> <p>4 質疑応答 (市民A)</p> <p>現設計案には反対である。見直し案を検討して欲しい。建設費は23億円、LCC(ライフサイクルコスト)は80~90億円のコストダウンとなる。構造もI字型で合理的。3,000㎡の広場を確保できる。公共施設マネジメント基金も26市中26位で、空調の修理などにも不安がある。</p> <p>(庁舎建設等担当課長)</p> <p>→見直し案は庁舎等建設に関する協議会の中でも出ており、それに対して「見直し案に係る庁舎建設等担当の見解(第8回庁舎等建設に関する協議会資料)」で「見直し案は、前提条件の抜本的な見直しを提起した1つの提案であり、市の事業として、見直し案を検討するには、条件の検討からやり直す必要があり、何年も立ち戻ることになる。」との趣旨で回答している。</p> <p>設計者選定の手続きを受けていない、見直し案を検討するというのは、公平性、透明性に欠ける。さらに、新庁舎建設調査において、I型案は検討済みで、検討の結果、耐震と免震をL型に配置する方針とし、その条件でプロポーザルを行っている。</p> <p>(佐藤総合計画)</p> <p>→耐震構造は、柱や壁をしっかり作って地震に耐える構造形式で、免震構造はゴムの上に建物を載せて、ゆっくりと揺れて地震に耐える構造形式で、耐震強度については、福社会館は通常、建築基準法の1.25倍で良いところを、1.5倍の強度としており、庁舎と同じ。ほとんどの公共施設は耐震構造で、巨大地震時には、安全を確保し、外に避難してもらうのが重要。巨大地震が来たときには、1か月ほど余震がある。市民が避難生活をしている間に、福社会館等の公共施設は通常の市民サービスをストップするのが一般的。</p> <p>一方、庁舎は、災害対策本部があり、機能をストップできないので、免震構造としている事例が多い。</p> <p>(庁舎建設等担当部長)</p> <p>LCCについての市の試算はライフサイクルコスト算出ソフトに基づき算出したもので、見直し案は、建設費をもとに一定割合を掛けて算出したものと聞いている。算出方法の違いによって、差が出ている。</p> <p>公共施設マネジメント基金は26位だが、これは、R4年から積み立てはじめたのが理由となっている。一方、何にでも使うことができる、財政調整基金の活用も見込まれることから、公共施設マネジメント基金が無いからと言って空調が修理できないわけではない。</p> <p>(市民B)</p>				

J R の高架下をなぜ利用しないか。J R は小金井市に高架下を利用させるべき。

市長の案に賛成である。見直し案について、市民案と言っているが、単なる私案にすぎず。市内の公共施設はぼろぼろであり、優先順位を決めて、できることから一つ一つ解決して欲しい。

(庁舎建設等担当課長)

→J R 高架下は、J R が事業展開する用地である。工事中は一部分を借りることになっているが、その後については未定であり、引き続き協議を行っていく。

(市長)

→図書館をはじめ、市内の公共施設について多くの要望があるのは理解している。その中でも庁舎が優先だと考えて進めて行く。

(市民C)

庁舎のバリアフリーについて教えて欲しい。目の見えない方、耳の聞こえない方、L G B T 含めてバリアフリーが十分か。

(庁舎建設等担当課長)

→都のユニバーサルデザイン導入ガイドラインに沿って、様々な視点に立って多くの人々が利用しやすい施設となるよう設計している。また、バリアフリー法や福祉のまちづくり条例に従った設計としている。さらに、基本設計時には、各障がい者団体や子育て支援団体、高齢者団体にヒアリングをして進めてきた。

(福祉会館建設等担当課長)

→新福祉会館については。出入口にシグナルエイドを持つ人に対する音声案内を設けている。多目的トイレにはオストメイト設備を設置。

(庁舎建設等担当課長)

→実施設計再開にあたり、都の福祉のまちづくり条例改定に従って、車いす専用のトイレなどを検討する予定である。

(市民D)

R 3 年 3 月の浸水問題に係る決議によると、実施設計中に東京都はハザードマップを改定したが、小金井市は対応しておらず、庁舎建設担当と防災の担当者で伝達不足があったほか、床上浸水の危険性を検証せずに基本設計を終えて、実施設計を発注してしまった問題が重なった。また、設計者からハザードマップ改定について指摘した形跡がなく。市から業者に知らせなかったために 1,800 万円追加でかかっている。事情を知らずに進めたのであれば優良な企業と言えない。現設計は、建物に浸水しないが、敷地内は水没したままで、防災施設として成立するのか。敷地が浸水する今の設計は、避難時に問題が生じる。

(庁舎建設等担当課長)

→当時の最新の東京都公共物建設基本指針に従い、改定前のハザードマップでプロポーザル・設計を行っている。自治体はこういった情報が入ってくるが、法律改正ではないので設計事務所には情報は直接入ってこない。

小金井市の下水は、都の下水基準に従っていたので、建設予定地に浸水したままではなく、すぐに排水されるだろうと地域安全課とも確認を取っていた。防災マップ改訂以降は、地域安全課とも協議して、駐車場の一部を自衛隊などの支援車が利用できるよう、駐車場は盛り土をして上げている。庁舎については浸水対策として 1 階床の高さを上げるようにした。防災施設としての機能と市施設という財産を守ることを考えた対応を取った。

(庁舎建設等担当部長)

→一部敷地内で浸水するが、敷地全体を上げてしまうと、下水で処理しきれなかった雨などが、敷地外に全て流出してしまう。敷地内に一定の水を貯留するので周辺への水の流出を抑える効果があり、庁舎の浸水対策は、現設計で十分だと考えている。

(市長)



→今回は、最大降雨量を超えて下水処理が追い付かず敷地内に雨水が溜まる浸水の話である。それだけの降雨量がある時は、降雨情報は事前に分かるようになっているので、事前に対応を取ることができる。浸水対策としては十分だと考えている。

(佐藤総合計画)

→東京都から設計事務所にハザードマップ改定の連絡はない。小金井市からは排水能力を上げてという要望があったが、地盤レベルを上げる対策まで必要との情報はなかった。

未曾有の雨が降っている時は天気予報でも事前に分かるので、福祉会館が通常どおりサービスを行っているとは考えられず、当日の避難の問題は無いと思う。防災対応を考慮し、浸水対策を行った。

(市民E)

蛇の目ミシンの跡地は過去78年間浸水したことはない。敷地内の排水口を大きく設計すればよい。

市の職員の自動車と自転車は敷地内に停めるか。大災害時には自衛隊の車両でいっぱいになる。

(市長)

→職員の通勤の自動車は停めない。自転車は停める。

(市民F)

設計案は、市長案ではなく、市民と行政が合意した案であり、現設計を基に早く進めてほしい。見直し案の資料を鵜呑みにしている方がいるので質問するが、見直し案は確認申請が2か月で可能。R6年7月にプロポーザルを行った後、基本・実施設計を16か月でできるというが、こんなに短期間でできるわけが無いと思うが可能なのか。

(庁舎建設等担当課長)

→行政というのは、いろいろな人の意見を聞きながら進めなくてはいけない。様々な意見を取捨選択ながら判断していく。行政が、1つの意見を突然、採用するという事はない。今、見直し案を検討する場合は、基本計画から立ち返る手続きをすることになる。

(庁舎建設等担当部長)

→確認申請は2か月でも可能。小金井市には市民参加条例があり、市民の意見を聞きながら1～2年かけて審議し、パブリックコメントにかけるのが通例。民間企業であれば16か月でも可能かもしれないが、小金井市では不可能。

(市民G)

子どもが通う公立の学校がぼろぼろなので、市庁舎を早く建てて、他の事業も進めて欲しい。反対意見が多くて驚いたが、周囲の友人はみな建設に賛成しており、反対意見は聞いたことがない。

(市民H)

福祉会館と庁舎で耐震強度の違いはないという話だが、大地震が起きた場合に、福祉会館にたまたまいた人は強く揺れて、市庁舎にいた人はゆっくり揺れて、平等ではないと感じた。

(市民I)

早く庁舎を建設して欲しい。

福祉会館において、福祉関係を2階、子ども関係を3階としている意図は何か。JR高架下は、自転車をおりて歩かなければいけないところがあるのでスムーズに行き来できるようにして欲しい。

(庁舎建設等担当課長)

→福祉共同作業所の関係者に意見を聞いたところ、近年、障がい者施設で事件が起きており、部外者が入りやすい1階は避けたいという要望があり、2階にしている。子ども家庭支援センターは保健センターとの連携や、庁舎3階に子ども関係の課があるので3階に計画している。福祉会館はエレベーターが2基あるの

で、ベビーカーの方もエレベーターで上っていただくよう考えている。

(市民J)

令和5年6月の再開予算修正可決の説明で、「※検証を除く予算は全会一致で可決」と書いてあることについて説明をしてほしい。

(市長)

→令和5年6月の再開予算について、議員提案による修正予算案が可決されたと書いている。これは議案の採決をとる時に、まず修正提案について可決され、その後に、原案部分について採決をとる。その原案部分については全会一致だった。

(市民K)

3年前に基本設計説明会があった時におかしいと感じ、見直し案(市民案)を作成した。その設計の意図は。

- ・84億円が高いと感じた。
- ・地下駐車場を無くせないか。
- ・福社会館を免震化したい。
- ・16か月で建設可能。

と考えたものである。

5 閉会

— 以上で、閉会 —

新庁舎・(仮称) 新福祉会館建設 事業市民説明会 (5回目)	日時	令和5年11月4日(土) 14:30~16:40	場所	公民館貫井北分館 学習室A B
説明者	白井市長、高橋庁舎建設等担当部長、前島庁舎建設等担当課長、笹栗福祉会館建設等担当課長、田中公共施設マネジメント推進担当課長、富田企画政策課長			
事務局	企画政策課 福井主査、奥主査、斉藤主任 (受託者) 株式会社佐藤総合計画			
参加者数	47人(うち市議会議員7人)			
次第	1 開会 2 市長挨拶 3 新庁舎・(仮称) 新福祉会館建設事業について 4 質疑応答 5 閉会			
(進行: 企画政策課主査)				
1 開会 2 市長挨拶 3 新庁舎・(仮称) 新福祉会館建設事業について (1)これまでの経過、(4)検証結果に基づく設計見直し、(5)再開方針案について、前島庁舎建設等担当課長が説明を行い、(2)現設計、(3)現設計の検証結果について、株式会社佐藤総合計画が説明を行った。				
4 質疑応答 (市民A) 市民案を検討して欲しい。理由は次による。 ①市民案は南側に3,000㎡の広場が確保できる。現設計案は、北側に寒々しい広場を計画しており、車の出入りもあって危険である。 ②市民案はシンプルな形状であるが、現設計案は、庁舎に福祉会館を差し込んだような形で、免震構造と耐震構造の複合で、クリアランスの分厚い壁があって、福祉会館も狭くなる。建設ヤードも北側にしか確保できず非効率的である。 ③市民案であれば、南北に災害支援の広場を設けることができる。 現設計案は北側にしか、災害支援の場が無い。もし北側が火災にあえば、使うことができない。 浸水時には、一部が浸水するため、建物にたどり着くことができない。 今から設計をやり直しても早く建設ができ、LCC(ライフサイクルコスト)も見直し案が安い。				
(市長) →現設計は市民の意見を聞きながら作り上げたもので、見直し案は、一部の市民が主張している案である。 今回は、一度作成していた実施設計を2年間の中断を経て再開することの説明会なので、配置や構造に関わる部分の変更できないが、意見は言って頂いて構わない。 現在の設計案は、基本構想、基本計画、設計者選考委員会、基本設計、市民ワークショップ等の手順を踏み、その都度、議会の議決を経て、民主主義の手続きを経た成果である。 また、現設計は、市民参加をしながら徹底的な議論をしてきた、基本計画(福祉、交流、協働の拠点施設をつくるというコンセプト)を踏まえた設計となっている。 基本構想から14年かかっている。庁舎が進まないことで、他のやるべき事柄が停滞している。大きな組織改編もできない。建設が遅れるほど、物価高騰のリスクもある。第二庁舎の賃料(1年あたり2.3億円)も払い続けなければいけない。もし、やり直す場合、条件設定、基本計画から、全てやり直しをする必要があり、設計に入るまでも、何年かかるか分からない。 以上のことから、見直し案を検討する考えはない。				
(佐藤総合計画) →浸水対策について、設計の途中で、都のハザードマップが改定され、浸水するエリアが増えた。庁舎敷地が浸水している場合、周辺一帯が水没している。災害級の事態になることは、事前に分かっているので、福				

社会館は通常の業務を行っていないと思われ、市民が避難に困る事態にはならない。最高水位になっても地下駐車場にも水は入らない設計としているので、水が引き次第、災害復旧活動ができる。また、敷地全体を上げるには、1 m以上盛土をすることが必要で、開発行為の手続きが必要になり、1年ほど時間がかかる。時間とコストをかければ、できなくはないが、庁舎周辺の道路は水没していることになる。川に近い場所ではないので、安全が確認できてから活動し始めれば良いとの考えで設計している。

(市民B)

質疑を聞いていると、今回の説明会は、形だけ意見を聞く会のように聞こえる。

(市長)

→今回は、実施設計を再開することになり、これまでの経緯と、現在の状況を説明するための説明会である。建物の構造は変更できないが、その上で、質疑やご意見頂いた中に、屋上庭園や駐車場、動線や広場などの気づきもあるため、そういったものを吸収したいと考えている。

(市民C)

見直し案を市民案と言われるのは不本意である。反対意見はともかく、早く進めて欲しい。現在の本庁舎は老朽化しており、元気がでる雰囲気ではないので、職員が良い環境で働けるように庁舎建設を早く進めて欲しい。少しでも前に進めないと、いつまでも進まないのではないかと危惧する。

(市民D)

戸建て住宅なら、南側に広場をつくるのは常識である。見直し案では18.5か月で建設ができ、コストも安くなる。市長には、市民の目線に立って考えて貰いたい。30kWの太陽光発電設備を載せる計画だが、30kWというのは、1か月の庁舎の電力消費量の何パーセントに当たるか。また、太陽光発電パネルの下で野菜を育てるという取り組みもある。

(市長)

→庁舎であり戸建て住宅ではない。行政の進め方は、市民の意見を踏まえ、市民参画しながら、議会の議決を得ながら進める必要がある。もし、見直すことになると、条件設定、基本計画等、設計に入るまで何年掛かるかわからない。その間に新しい案が出るかもしれないし、切りがない。コストが安くなると言うが、時間がかかるほど、第二庁舎の賃料だけでなく、庁舎建設担当職員の人件費などのコストも膨大にかかっている。分散庁舎による人件費のロスもある。そういった建設費以外のコストも勘案すべきである。

(庁舎建設等担当課長)

→太陽光発電の消費電力は後日回答する。

(市民E)

市民サークルのロッカー申込の日には、100台近くの車が来庁し、事故がおきる懸念がある。

ジャノメ跡地に福社会館をもってくる必要はなく、本庁舎跡地に市役所業務の一部をもってくる、1階に福社会館、2階に図書館、3階に公民館を建てたらよいのではないか。また、本庁舎の北側の住宅は、本庁舎の日影の影響を受けている。法律改正によって、現本庁舎は、現行法に不適合状態となっている。

(市長)

→福社会館はジャノメ跡地になる。本庁舎跡地をどのように活用していくかは、これから議論していく。

(市民F)

今までのプロセスを踏まえて決めてきたのは理解できたが、市長交代と中断を機に、良いものを考え直して検討してもらいたい。

実施設計検証報告書の①⑥⑧を複合すれば、コスト削減ができると思う。「コスト、設計期間、機能面等への影響を考慮すると設計反映するだけの効果は見いだせなかった」という結論に至った理由を教えて欲しい。

い。免震+耐震とした理由を教えてください。

(市長)

→見直し案は数年前の議員時代から知っていたが、私自身、現行案を推してきた。見直し案は、条件設定から遡ってやり直す必要があり、時間がかかるので、採用する考えはない。

(庁舎建設等担当課長)

→実施設計検証の各項目について、工事費だけでなく、設計費や、設計をやり直す時間もかかる。そういったことを考えると、コストダウンにつながるとはならないと判断をした。

庁舎を免震にした理由は、庁舎は発災時には、災害対策本部機能を持つだけではなく、庁舎は何日以内、何時間以内に業務を再開しなくてははいけないという事業継続計画が決まっているので、庁舎を免震構造としている。

(庁舎建設等担当部長)

→構造に関わる設計変更をするとすると、設計変更期間で 18 か月かかる。時間が延びる分、第二庁舎の年 2.3 億円の賃料も積みあがってくる。本庁舎は老朽化で不安を抱えながら業務を行っているが、建設が延びるとすると改修もしなくてははいけないことになる。

(市民G)

新庁舎敷地の前に住んでいる。庁舎の北面がガラス張りであるが、〇時以降ブラインドをおろすなど、近隣住民に配慮して欲しい。広場は騒音があるので、時間制限を設けて欲しい。店舗が高架下にオープンして車が多くなった。新庁舎ができる際には車の出入口の安全に配慮して欲しい。

(佐藤総合計画)

→北面のガラスにフィルムを貼ることは可能である。庁舎から丸見えということはないが、どれだけ西側のマンションが見えるかは検証する。

(庁舎建設等担当部長)

→車出入口の安全対策について、警察と協議をしていきたい。

(市民H)

熊本地震で全壊した市庁舎を見てきた。現在の本庁舎はサッシの隙間を新聞紙で埋めながら使っていたり、トイレの状況など、ぼろぼろである。地震が起こった時に役所の職員の安全が確保されていないというのは、市民にとって損失だと思う。見直し案を推している人はなぜ、もっと早く言い出して、プロポーザルに参加しなかったのか。早急に庁舎を建設することを優先して欲しい。

(市民I)

建物を南側に配置している理由を教えてください。

(佐藤総合計画)

→敷地は準工業地域になっており、日影制限がある。さらに第2種高度地区という北側の高さ制限もあり、北側に高い建物を建てることができない。駐車場や駐輪場を確保しながら、既存樹木も残すことを考えながら、まとまった建物を建てる必要があり、南側に建物を配置している。

なお、南側に広場を配置すると、夏場は直射日光により居られないし、北側に駐車場があることにより、車が異常に熱くなることは避けられる。北側に広場があることにより、子どもも日陰で遊ぶ。

(市民J)

構造についての質問ができないではないか。また、ブルドーザーやショベルカーで敷地を平らに整備すれば良い。

(庁舎建設等担当部長)

→構造に関わる変更を設計に反映するのは難しいが、発言を制限する意図はない。

1 m以上盛土をすると開発許可という手続きが必要で、1年程度時間がかかる。議会においても敷地全体の高さを上げた方が良いといった意見があった。一方で、敷地全体の高さを上げてしまうと、内水氾濫をするような豪雨時に、隣地に雨が流出してしまうという意見もあった。現在の計画は、敷地内に一定の水を貯留するので周辺への水の流出を抑える効果があり、庁舎の浸水対策としては十分だと考えている。実際に、越谷や埼玉スタジアムなど周辺に水が流れないように貯留をするような事例もある。

(市民K)

見直し案の場合、LCC(ライフサイクルコスト)は117億円も安くなるという。全市民アンケートを取ればいろんな意見を聞くことができる。なぜもっと早くアンケートを取らなかったのか。

(庁舎建設等担当課長)

→現設計は実施図面を作成し、詳細積算まで行って工事費を算出している。見直し案は床面積に単価を掛けた程度の概算だと聞いている。金額の精度が違うので比較は難しい。また、民主的手続きを経ていない見直し案と市民の意見を聞きながら作った設計を比較することは公平性に欠ける。

(市民L)

耐震構造と免震構造を合体させるとひずみができるとの話を聞いたことがあるが、問題ないのか。

(佐藤総合計画)

→古い建物に新しい建物を増築する場合など、耐震構造と免震構造を合体させる例は多数ある。東京駅などは耐震構造の上に免震の駅舎が載っている。

耐震構造は、柱や壁をしっかり作って地震に耐える構造形式で、免震構造はゴムの上に建物を載せて、ゆっくりと揺れて地震に耐える構造形式で、揺れ方が違う。耐震構造と免震構造を複合させる場合は、ぶつからないように隙間を設けて設計する。連結部は、電車の接続部のように動くので、地震時には連結部から離れていただくことが必要であり、注意喚起の表示も行う。

(市民M)

(説明資料P17) 23区・26市の市庁舎とのコスト比較で、小金井市の工事費に【参考】と書かれているが、意図は何か。

また、小金井市は、近くに(所沢から立川)断層がある。庁舎は福社会館の上で、30m近く片持ち構造となっている。地震の横揺れだけでなく、上下の振動もある。片持ち構造は上下の振動に弱い。建築物各所に変形ひずみが生じることに對してどういった考慮をしているのか。立ち戻って見直すのは今だと思う。

(庁舎建設等担当課長)

→多摩市はR4年度の基本構想の段階の工事金額で、段階が進むにつれ金額が変わる可能性がある。小金井市は積算額に建設時期の物価に合わせて想定したものとなっている。参考として載せている。

(佐藤総合計画)

→片持ち構造ではなく、庁舎が福社会館に載っている形で、庁舎の重量を地盤までしっかりと伝えている形になっている。さらに、通常、福社会館は構造強度が1.25必要なのに対して、1.5倍の強度としている。

地震対策については、過去の地震をもとに、予備地震波を作成し、計算をしているので、想定値以内の地震に対して壊れることはない。

縦揺れについては、小金井市の直下が震源の場合であるが、過去に小金井市直下での地震が起こっていないので可能性は低いと思われるし、現在の建築技術では直下型地震の対応は限界がある。直下で地震が起こった場合は、安全を確認して避難をして欲しい。

5 閉会

— 以上で、閉会 —

新庁舎・(仮称) 新福社会館建設 事業市民説明会 (6回目)	日時	令和5年11月4日(土) 19:00~21:30	場所	中町桜並集会所 集会室A B
説明者	白井市長、高橋庁舎建設等担当部長、前島庁舎建設等担当課長、笹栗福社会館建設等担当課長、田中公共施設マネジメント推進担当課長、富田企画政策課長			
事務局	企画政策課 福井主査、奥主査、斉藤主任 (受託者) 株式会社佐藤総合計画			
参加者数	38人(うち市議会議員8人)			
次第	1 開会 2 市長挨拶 3 新庁舎・(仮称) 新福社会館建設事業について 4 質疑応答 5 閉会			
(進行: 企画政策課主査)				
<p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶</p> <p>3 新庁舎・(仮称) 新福社会館建設事業について (1)これまでの経過、(4)検証結果に基づく設計見直し、(5)再開方針案について、前島庁舎建設等担当課長が説明を行い、(2)現設計、(3)現設計の検証結果について、株式会社佐藤総合計画が説明を行った。</p> <p>4 質疑応答 (市民A) 小金井市は2050年までにゼロエミッションを目指している。新しい庁舎はゼロエミッションになっているのか。 (庁舎建設等担当課長) →エネルギー消費量40%削減のZebOrientedを目指している。「Zeb」を目指すのは規模も10,000㎡あり難しい。運営して行く中で更なる削減が可能か検討していく。</p> <p>(市民B) 見直し案という案はだいぶ安くなると聞く。市庁舎建設のコストを下げると市内の他の施設の改修をするというのは考えていないのか。また、見直し案は検討しないのか。 (市長) →市内には、老朽化して改修や建て替えなど対策が必要な施設が多数ある。その状況に対して、現在は、公共施設マネジメントにより、市内の公共施設全体の計画に基づき、各施設への具体的な取り組みを行っている。 今日の説明会は、2年間、実施設計を中断していたので、実施設計を再開するという経過の説明会である。基本設計は、事業主の考えを図面にして、理解を得るために作成する。実施設計は、基本設計から、施工者に伝える図面を作成し、積算をする段階で、ほぼ完了していた段階でコロナ等もありストップしていた。配置計画や構造については議論を重ねて、議会の承認も得てきているので、この段階で反映させるのは難しい。 コストに関しては、見直し案のコストは概算値で、実施設計が完了して積算をした工事費とは熟度が違うため、比較はできない。</p> <p>(市民C) 周辺には園庭のない保育園がある。秋には保育園の運動会も開かれる。広場を広く取る見直し案を検討して欲しい。 (庁舎建設等担当課長) →現設計は、基本設計を始める前に、参加資格のある設計者がプロポーザルで提案したものを設計者選考委</p>				

員会にて選考を行い、決まったものである。公募型のプロポーザルの条件に外れている見直し案に対して、公平性の観点から、市として比較検討をすることはできない。

(市民D)

歩行者が敷地に入ってから、新庁舎玄関まで何を指して進んで行けばよいのか分からない。高架下から入るとピロティがあるが、建物の外側をぐるっと回って建物に入らなければならない。さくら広場側から入っても舗装されたひろばを歩いて行くようになる。

(佐藤総合計画)

→西側の通りから入るのがメインの動線と考えている。中央に入口があるが、距離がある。建物西側にも出入口を設けているので、実際は西出入口から入ることが多くなると思われる。

(市民E)

なぜ南側に広場を作らないのか。庁舎と福祉会館の構造がなぜ違うのか。

(庁舎建設等担当課長)

→プロポーザルの前のH29年、H30年の建設計画調査で、施設配置は決まっている。その段階で、一直線の形も含めて建物配置を検討した上でL字型が敷地を効率的に使えると判断し決めている。それを踏まえて、基本設計を行い、施工者に伝える図面を作成する実施設計を行い、ほぼ終わった段階であった。財政的な懸念がありストップしていたが、今回は再開をすることの説明会であり、大きな変更は難しい。

(市民F)

高架下は利用しないのか。

(庁舎建設等担当部長)

→高架下はJRの土地であり、利用についてJRと協議している。庁舎敷地の北側の一部分は、工事中に通路として使わせてもらうことになっている。庁舎完成後も引き続き使えるよう、引き続き協議をしていく。

(市民G)

最初の計画では、現在利用を開始している計画であったと思う。さまざまな市民参画を行い決定してきた現設計で1日も早く市庁舎を建設して欲しい。福祉会館の使い方について、途中まで協議されていたと思うが、今後、どのように協議を再開させようと考えているか教えて欲しい。

(庁舎建設等担当部長)

→運用面はまだ決まっていないものが多い。例えば、臨時駐車場にキッチンカーを置いて運用ができないか、さくらひろばの使い方、市役所の前でイベントができないかなど、アイデアはあるが決まっていない。オープンに向けて検討が必要。運用面の検討のためにも、現設計で速やかに進めていきたい。

(市民H)

広場が広いと良いが、駐車場と広場のせめぎ合いだと思う。駐車場台数の設定について教えて欲しい。かつての使われ方から決めた台数なのか、電子化が進みコンビニ交付も普及してきたことを考慮した台数なのか、ココバスのルート変更などを考慮した台数なのか考えを教えて欲しい。

(企画政策課主査)

→H29年 建設計画調査 126台(公用車48台+付置義務台数58台+利便性向上目的20台)と設定。

R1年 基本設計 124台(本庁舎駐車場の利用状況なども踏まえて算出)

としていたが、基本設計後のパブリックコメントで広場を増やす要望が多かったため15台減らし、

R3年 実施設計 109台(公用車41台(地下)+地上45台+臨時23台)とした。

(市民I)



敷地の向かいにあるマンションは、駐車場が空いている。近隣駐車場を活用して、敷地内の駐車台数を減らすことができる余地があるのか伺いたい。

(市長)

→基本的には敷地内で駐車場を確保する考えであるが、運用の中で、駐車場が足りない場合も考えられるので、その際には相談させて頂きたい。

(市民J)

駐車場は 109 台も必要か。(向かいのマンションは6割程度しか埋まっていない。車を持たない人が増えている。) 需要が少ないのであれば、駐車台数を減らしてもよいのではないか。

(庁舎建設等担当部長)

→運用を始めてみないと多い少ないは分からないが、福祉会館利用者を考慮するとかなり厳しいと懸念している。第二庁舎では、期日前投票の時には渋滞が起きている。実際に運用を開始してから検討したい。

(市民K)

福祉会館が完成すると、多世代が交流できる施設になると良いと思うが、そこに意識が及んでいない方も多い。完成前から、使い方を検討ができるようにするのか教えて欲しい。

(市長)

→建物を建設するかどうかの議論が中心で、実施設計に入ってからソフト面については協議できていない。できる前から、いかに人を巻き込んでいくかが大事で、ご意見を汲んでいきたいと思っている。

(市民L)

近隣マンションの車寄せの前に横断歩道と信号が建てられて、不便に感じている。そのことにより、敷地内を部外者が通り抜けする問題が起きているが、庁舎ができたなら、通り抜けが増えることを心配している。高架下の南側のT字路に信号を設けて、マンションの車寄せ前の信号は廃止をして欲しい。

(庁舎建設等担当課長)

→信号機は警察の所管であり、警察の安全の考え次第だが、分かればお知らせする。通り抜けの話は理事会の方から話は伺っている。理事会の方に言ってもらえれば、市にも連絡があることになっている。

(庁舎建設等担当部長)

→担当部署には改めて、お話を共有しておく。

(市民M)

15 年前から建替計画や、第二庁舎の賃借料の問題があった。これまでの経過は分かったので、今後は早く建設して欲しい。

公共交通について、崖線下の地域からのアクセスを良くする方向に進んでいるかどうか。また、崖線下に市役所の出張所を作って欲しい。

(市長)

→交通アクセスについて具体的な検討はできていないが、課題があることは理解している。崖線下に出張所を造る計画はないが、DX 推進や公共施設全体の機能の在り方を整理する中で検討していきたい。

(市民N)

見直し案は条件変更だと言うが、市も条件を変更しているので(①清掃関連施設が建ったまま建設する②福祉会館を先行竣工させる)、見直し案がダメというなら、市長案も一から見直すべきということになる。

見直し案は、

- ・さくらひろばから庁舎に行く時に車路を渡るのが危ない。
- ・全て免震構造とするべき。

・地下駐車場をやめれば、もっと安く建設することができる。

との思いからプランを行った。

見直し案を議員時代の市長に話した時は乗り気だった。スケジュールについても設計変更は十分可能だと考える。

(市長)

→我々の案は市長案ではなく、市民と一緒に作ってきた市民案である。市では、設計条件の変更はしていない。清掃施設が建ったままという条件は変更せずに設計を行っている。単に時間が経過して、清掃関連施設の移転が先になっただけである。また、状況が変わり、先行竣工する意義は無いと判断した。

議員時代も議会では現案を認める立場を取り続けていた。現設計は民主主義のプロセスを経た成果。基本構想、基本計画、建設計画調査、プロポーザル、設計者選考委員会、基本設計、市民ワークショップ等の手順を踏み、その都度、議会の承認を受けながら民主主義の手続きを経てきている。実施設計再開にあたり、議会の議決も経ている。

また、現設計は、庁舎の基本計画、福祉会館の基本計画に基づいて、小金井市を進展させるためのコンセプトを作って、福祉・協働・交流のまちづくりを実現するための設計だと思っている。

今から見直し案を検討するとなると、条件設定から遡ってやり直す必要があり、設計をスタートするまでに、膨大な時間がかかる。さらに、庁舎ができないために市政が停滞している。抜本的な組織改革も行っていない。より良い市民サービスを提供したいができない状況が続いている。本庁舎はトイレの天井が落ちている状況で、もし、庁舎建設が更に時間がかかるのであれば、改修の手を加える必要がある。第二庁舎のリース費の問題も解決しない。

今、設計をやり直す段階ではない。

(市民O)

ひろばスペースとさくらひろばを合わせて840㎡か。今の暫定広場(7,000㎡)と比べて狭い。

東北大震災では、家具や備品が落ちたりした。福祉会館は弱者が集まるところで、障害のある人への合理的配慮の義務化したので、免震構造にするべき。

(佐藤総合計画)

→さくらひろばだけで840㎡あり、現在の本庁舎の前の駐車場くらいの広さがある。条例によって、大きな敷地の開発をするときには、道路に面した位置に広場を設ける必要があり、道路に面してさくらひろばを設けている。

庁舎側のひろばスペースはキッチンカー等も置ける荷重設定としている。繁忙期は、駐車場として利用できるように荷重設定をしている。繁忙期以外は、イベント利用なども可能である。

免震構造について、ほとんどの公共施設は耐震構造で、巨大地震時には安全確保後、外に避難してもらう考えになっている。巨大地震が来たときには、1か月ほど余震がある。市民が避難生活をしている間に、福祉会館は、通常の市民サービスを一度ストップすると考えられる。一方、庁舎は、災害対策本部があり、機能をストップできないので、免震構造としていると理解している。

(市民P)

地下駐車場は職員の通勤用の駐車場か。

(庁舎建設等担当部長)

→公用車用の駐車場で、業務で使用する自動車を停める。

(市民Q)

見直し案に賛成。現設計は広場と車の出入口が近いので危険だと思う。ココバスも敷地内を通るとなるとさらに危険だと思う。広場と駐車場を分けた方が安全だと思う。

(市長)

→危険性解消の方法は検討する。なお、ココバスは敷地内に入るルートとはなっていない。

5 閉会

— 以上で、閉会 —